

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和2年11月12日(2020.11.12)

【公開番号】特開2019-577(P2019-577A)

【公開日】平成31年1月10日(2019.1.10)

【年通号数】公開・登録公報2019-001

【出願番号】特願2017-120095(P2017-120095)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和2年10月2日(2020.10.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技が可能な遊技機であって、

移動可能範囲の少なくとも一部が重なる第1可動体と第2可動体とを含む複数の可動体を備え、

前記第1可動体を第1所定位置に向けて移動させると同時に、前記第2可動体を非干渉機位置に向けて移動させ、

前記第2可動体が前記非干渉機位置に到達したときに、前記第1可動体が非干渉位置に到達している場合は前記第2可動体を前記非干渉機位置から第2所定位置へ移動させ、前記第1可動体が前記非干渉位置に到達していない場合は前記第2可動体を前記非干渉機位置にて待機させ、

前記非干渉機位置は、前記第1可動体と前記第2可動体の移動可能範囲が重ならない非干渉領域のうち、前記第1可動体の移動可能範囲に最も近い位置であり、

前記第1可動体は、位置に応じて態様が変化する

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

前記課題を解決するために、本発明の手段Aの遊技機は、

遊技が可能な遊技機であって、

移動可能範囲の少なくとも一部が重なる第1可動体と第2可動体とを含む複数の可動体を備え、

前記第1可動体を第1所定位置に向けて移動させると同時に、前記第2可動体を非干渉機位置に向けて移動させ、

前記第2可動体が前記非干渉機位置に到達したときに、前記第1可動体が非干渉位置に到達している場合は前記第2可動体を前記非干渉機位置から第2所定位置へ移動させ、前記第1可動体が前記非干渉位置に到達していない場合は前記第2可動体を前記非干渉

待機位置にて待機させ、

前記非干渉待機位置は、前記第1可動体と前記第2可動体の移動可能範囲が重ならない非干渉領域のうち、前記第1可動体の移動可能範囲に最も近い位置であり、

前記第1可動体は、位置に応じて態様が変化することを特徴としている。

この特徴によれば、複数の可動体の連係動作を速めて、複数の可動体を連係させた演出の演出効果を高めることができ、複数の可動体による演出の興趣を向上できる。

また、前記課題を解決するために、本発明の手段1の遊技機は、遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機1）であって、移動可能範囲（例えば、移動可能範囲E1、移動可能範囲E2）の少なくとも一部が重なる第1可動体（例えば、第1可動体302L, 302R）と第2可動体（例えば、第2可動体402L, 402R）とを含む複数の可動体を備え、

前記第1可動体を第1所定位置（例えば、第1進出位置）に向けて移動させるとともに、前記第2可動体を第2所定位置（例えば、第2進出位置）よりも前の非干渉待機位置（例えば、待機位置）に向けて移動させ、

前記第1可動体が非干渉位置（例えば、検出位置）に到達したことに応じて、前記第2可動体を前記非干渉待機位置から前記第2所定位置へ移動可能とする（例えば、演出制御用CPU120は、第2可動体402L, 402Rを第2収納位置から第2進出位置よりも前の待機位置へに向けて移動させるが、第1可動体302L, 302Rが干渉領域E3を通過して中間位置センサ311により検出される検出位置に到達したことに応じて、第2可動体402L, 402Rを待機位置から第2進出位置へ移動可能とする。図15、図16参照）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、複数の可動体の連係動作を速めて、複数の可動体を連係させた演出の演出効果を高めることができ、複数の可動体による演出の興趣を向上できる。